令和６年６月21日
第18回高齢者医薬品適正使用検討会
資料４－１

# 日本版抗コリン薬リスクスケール


## 溝神文博

日本版抗コリン薬リスクスケール作成ワーキンググループ　幹事
（国立長寿医療研究センター）



作成：一般社団法人　日本老年薬学会　日本版抗コリン薬リスクスケール作成ワーキンググループ
協力：一般社団法人　日本老年医学会

# 日本老年薬学会
# COI開示
# 筆頭発表者名：　溝神　文博

演題発表に関連し、発表者らに開示すべきCOＩ関係にある企業などはありません。

3

# 抗コリン薬とは？

抗コリン薬とは、抗コリン作用をもつ薬物の総称で、アセチルコリンという神経伝達物質の作用をブロックし、多くの身体機能に影響を与える薬物です。

- M1受容体：主に中枢神経系に位置し、認知機能や胃酸分泌を調節
- M2受容体：心臓に多く存在し、心拍数や心筋に作用
- M3受容体：平滑筋や腺体に位置し、収縮や分泌を促進。
  気管支喘息や過活動膀胱の治療使用。
- M4受容体：中枢に位置し、ドーパミンの放出を調節し、神経興奮を抑制。
- M5受容体：中枢と血管内皮に存在し、ドーパミン放出や血管の拡張に関与。

抗コリン薬は特定の病状を改善する効果がある一方で、様々な副作用も引き起こす可能性もあります。

4

## 経 緯

- 海外では各国の状況を踏まえた数多くの抗コリン薬リスクスケールが開発されており、抗コリン性の薬物有害事象のリスク評価に広く利用されている。
- 日本では臨床的視点に基づくリスクスケールが存在しておらず、国内の医療現場において海外のリスクスケールをそのまま適用することには限界がある。
- 日本老年薬学会では、医師、歯科医師、薬剤師、基礎薬学研究者の合計15名からなる「日本版抗コリン薬リスクスケール作成ワーキンググループ」を立ち上げ作成を行った。

# 日本版抗コリン薬リスクスケール作成ワーキンググループ

| | 氏名 | 所属施設 |
|---|---|---|
| 代表 | 秋下　雅弘 | 東京都健康長寿医療センター |
| | 新井　さやか | 千葉大学医学部附属病院薬剤部 |
| | 亀井　美和子 | 帝京平成大学薬学部 |
| | 小島　太郎 | 東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座老化制御学 |
| | 阪井　丘芳 | 大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能治療学講座 |
| | 柴田　ゆうか | 広島大学病院薬剤部 |
| | 田口　怜奈 | 一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構 |
| | 竹屋　泰 | 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻老年看護学教室 |
| | 那須　いずみ | フラットアイアンヘルス株式会社 |
| | 東　　敬一朗 | 医療法人社団浅ノ川浅ノ川総合病院薬剤部 |
| | 松本　彩加 | 熊本リハビリテーション病院サルコペニア低栄養研究センター |
| | 水野　智博 | 藤田医科大学医学部薬物治療情報学 |
| 幹事 | 溝神　文博 | 国立長寿医療研究センター薬剤部 |
| | 茂木　正樹 | 愛媛大学大学院医学系研究科薬理学 |
| | 山田　靜雄 | 静岡県立大学大学院薬学研究院薬食研究推進センター |

# 目 的

1. 高齢者に頻用される抗コリン薬のリスクを正確に評価し、薬物療法の適正化（ポリファーマシー対策を含む）を図る。
2. 抗コリン薬のリスクに関する具体的な指標を提供することで、医師、歯科医師や薬剤師等が、特に高齢者への処方・調剤時にリスクを再認識することを目指す。
3. 抗コリン薬による薬物有害事象や相互作用を減少させることにより、患者の生活の質（Quality of life: QOL）の向上を目指すことを目的としている。

7

# 対 象

- 高齢者を主な適用対象とするが、若年者でも基礎疾患によっては薬物有害事象の危険が高まることがあり、

  **適用対象に年齢上の区分は設けない。**

- あるゆる医療介護現場で使用されることを想定して作成されており、利用対象は薬剤師、医師・歯科医師、看護師やその他の医療介護専門職全般である。

## 2つの側面を評価することを推奨

### 1. 個々の薬物のリスク評価

各薬物が持つ抗コリン作用によるリスクの強さをスコア3から1で評価を行う。
高いスコアの薬物を使用している場合は、より低いスコアの薬物に切り替えるなど検討を行う。

### 2. 総合的なリスク評価（総抗コリン薬負荷）

高齢者は複数疾患に罹患しており複数の薬物が処方されていることが多く、
それぞれの薬物のスコアを合算し、患者の総抗コリン薬負荷を算出する。
薬物療法全体の抗コリン作用によるリスクを把握することが可能となる。

9

# 使い方 2

1. 総抗コリン薬負荷は服用期間が長くなるほどそのリスクが増加することが示されているため、服用期間も含めて確認し、総抗コリン薬負荷を下げるよう介入することが望ましい。
2. 日本版抗コリン薬リスクスケールには、多くの一般用医薬品も含まれるため、一般用医薬品の使用に関しても同様に評価することが求められる。なお、薬物の中止に際しては、突然中止すると病状の急激な悪化を招く場合があることに留意し、必要に応じて徐々に減量するなどの対応が望ましい。

Gray, Shelly L., et al. JAMA internal medicine 175.3 (2015): 401-407.

# 作成方法（対象医薬品）

評価対象薬物の選定

- 文献調査を行い、抗コリン薬リスクスケールに関する16文献を入手
- 日本で入手可能な薬物（薬価収載薬、一般用医薬品）のみに限定することとした。対象薬物は、内服薬、全身作用目的の経皮薬のみを対象とし、外用薬、眼科薬（局所）、耳科薬（局所）、経鼻薬（局所）、吸入薬などの非経口薬で全身作用を期待しない薬物は除外した。なお、販売中止医薬品も含まれていたため除外した。
- 185薬物が評価対象となった。

# 作成方法（スコア決定プロセス）

## 平均点算出（アルゴリズム1、2）

リストの記載件数および、スコアに関する平均点およびバラツキを考慮した上でスコアを算出した。

## デルファイ法

平均点算出で決定できない薬物は、専門家による投票を行った。1薬物ごとに議論を行い、6名の委員のうち、5名が同じ点数の場合、同意とし点数を確定した。なお、1度の投票で合意に至らなかった場合は、再度議論を行い、投票を繰り返した。

### スコア決定に関するプロセスの例

| 医薬品名 | 点数確定方法 | 確定した点数 | スコア平均 | リスト記載件数(1点) | リスト記載件数(2点) | リスト記載件数(3点) | リスト記載件数(合計) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| プロクロルペラジン | アルゴリズム1 | 2 | 1.8 | 2 | 7 | 0 | 9 |
| レボメプロマジン | デルファイ法 | 2 | 2.4 | 0 | 7 | 4 | 11 |
| ヒドロキシジン | アルゴリズム2 | 3 | 2.8 | 1 | 1 | 10 | 12 |
| ジフェンヒドラミン | アルゴリズム1 | 3 | 2.8 | 0 | 2 | 10 | 12 |
| プロメタジン | アルゴリズム2 | 3 | 2.8 | 1 | 0 | 9 | 10 |
| アリメマジン | デルファイ法 | 2 | 1.7 | 3 | 2 | 1 | 6 |
| クロルフェニラミン | アルゴリズム1 | 3 | 2.8 | 0 | 2 | 11 | 13 |
| シプロヘプタジン | アルゴリズム1 | 3 | 2.7 | 0 | 3 | 8 | 11 |

作成方法の詳細は、本文P11参照

# 掲載薬物とスコア

１５８薬物が掲載となった

- **スコア３：３７薬物**（一般用医薬品：１５薬物[40.5%]を含む）
- **スコア２：２７薬物**（一般用医薬品：４薬物[14.8%]を含む）
- **スコア１：９４薬物**（一般用医薬品：１７薬物[19.1%]を含む）

既存の16リスクスケールと比較して記載件数が最も多い結果となった。

これは日本で特異的に使用されている医薬品を含めたためである。

また、スコア０に関しては非掲載とした

# 日本版抗コリン薬リスクスケール　1

| 薬効群 | 薬効群中分類 | 薬物 | スコア |
|---|---|---|---|
| 睡眠薬 | ベンゾジアゼピン (BZ) 系薬（超短時間型） | トリアゾラム | 1 |
| 睡眠薬 | ベンゾジアゼピン (BZ) 系薬（中間型） | エスタゾラム | 1 |
| 睡眠薬 | ベンゾジアゼピン (BZ) 系薬（中間型） | フルニトラゼパム | 1 |
| 睡眠薬 | ベンゾジアゼピン (BZ) 系薬（長時間型） | フルラゼパム | 1 |
| 抗不安薬 | ベンゾジアゼピン (BZ) 系薬（中間型） | アルプラゾラム | 1 |
| 抗不安薬 | ベンゾジアゼピン (BZ) 系薬（長時間型） | クロラゼプ | 1 |
| 抗不安薬 | ベンゾジアゼピン (BZ) 系薬（長時間型） | クロルジアゼポキシド | 1 |
| 抗不安薬　抗てんかん薬 | ベンゾジアゼピン (BZ) 系薬（中間型） | ロラゼパム | 1 |
| 抗不安薬　抗てんかん薬 | ベンゾジアゼピン (BZ) 系薬（長時間型） | ジアゼパム | 1 |
| 抗てんかん薬 | ベンゾジアゼピン (BZ) 系薬 | クロナゼパム | 1 |
| 抗てんかん薬 | バルビツール酸系薬 | フェノバルビタール | 1 |
| 抗てんかん薬 | 主にNaチャネル阻害薬 | カルバマゼピン | 2 |
| 抗てんかん薬 | 複合作用薬 | バルプロ酸 | 1 |

# 日本版抗コリン薬リスクスケール　2

| 薬効群 | 薬効群中分類 | 薬物 | スコア |
|---|---|---|---|
| パーキンソン病治療薬 | レボドパ含有製剤 | カルビドパ/レボドパ | 1 |
| パーキンソン病治療薬 | レボドパ含有製剤 | レボドパ | 1 |
| パーキンソン病治療薬 | ドパミン遊離促進薬 | アマンタジン | 2 |
| パーキンソン病治療薬 | ドパミン受容体刺激薬 | プラミペキソール | 1 |
| パーキンソン病治療薬 | ドパミン受容体刺激薬 | ブロモクリプチン | 1 |
| パーキンソン病治療薬 | ドパミン受容体刺激薬 | ロチゴチン | 1 |
| パーキンソン病治療薬 | 副交感神経遮断（抗コリン）薬 | トリヘキシフェニジル | 3 |
| パーキンソン病治療薬 | 副交感神経遮断（抗コリン）薬 | ビペリデン | 3 |
| パーキンソン病治療薬 | モノアミン酸化酵素（MAO-B）阻害薬 | セレギリン | 1 |
| パーキンソン病治療薬 | カテコール-O-メチルトランスフェラーゼ（COMT）阻害薬 | エンタカポン | 1 |

# 日本版抗コリン薬リスクスケール　3

| 薬効群 | 薬効群中分類 | 薬物 | スコア |
|---|---|---|---|
| 定型抗精神病薬 | フェノチアジン系抗精神病薬 | クロルプロマジン | 3 |
| 定型抗精神病薬 | フェノチアジン系抗精神病薬 | プロクロルペラジン | 2 |
| 定型抗精神病薬 | フェノチアジン系抗精神病薬 | プロペリシアジン | 2 |
| 定型抗精神病薬 | フェノチアジン系抗精神病薬 | フルフェナジン | 2 |
| 定型抗精神病薬 | フェノチアジン系抗精神病薬 | ペルフェナジン | 2 |
| 定型抗精神病薬 | フェノチアジン系抗精神病薬 | レボメプロマジン | 2 |
| 定型抗精神病薬 | ブチロフェノン系抗精神病薬 | ハロペリドール | 1 |
| 非定型抗精神病薬 | 多元受容体作用抗精神病薬 (MARTA) | クロザピン | 3 |
| 非定型抗精神病薬 | 多元受容体作用抗精神病薬 (MARTA) | オランザピン | 2 |
| 非定型抗精神病薬 | 多元受容体作用抗精神病薬 (MARTA) | クエチアピン | 2 |
| 非定型抗精神病薬 | 多元受容体作用抗精神病薬 (MARTA) | アセナピン | 1 |
| 非定型抗精神病薬 | セロトニン・ドパミン拮抗薬 (SDA) | パリペリドン | 1 |
| 非定型抗精神病薬 | セロトニン・ドパミン拮抗薬 (SDA) | ブロナンセリン | 1 |
| 非定型抗精神病薬 | セロトニン・ドパミン拮抗薬 (SDA) | リスペリドン | 1 |
| 非定型抗精神病薬 | ドパミン$D_2$受容体部分作動薬 (DPA) | アリピプラゾール | 1 |
| 抗精神病薬 | その他の抗精神病薬 | ゾテピン | 2 |
| 気分安定薬 | リチウム | リチウム | 1 |

# 日本版抗コリン薬リスクスケール　4

| 薬効群 | 薬効群中分類 | 薬物 | スコア |
|---|---|---|---|
| 抗うつ薬 | セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬 (SNRI) | デュロキセチン | 1 |
| 抗うつ薬 | セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬 (SNRI) | ベンラファキシン | 1 |
| 抗うつ薬 | 選択的セロトニン再取り込み阻害薬 (SSRI) | パロキセチン | 2 |
| 抗うつ薬 | 選択的セロトニン再取り込み阻害薬 (SSRI) | エスシタロプラム | 1 |
| 抗うつ薬 | 選択的セロトニン再取り込み阻害薬 (SSRI) | セルトラリン | 1 |
| 抗うつ薬 | 選択的セロトニン再取り込み阻害薬 (SSRI) | フルボキサミン | 1 |
| 抗うつ薬 | 三環系抗うつ薬 | アミトリプチリン | 3 |
| 抗うつ薬 | 三環系抗うつ薬 | アモキサピン | 3 |
| 抗うつ薬 | 三環系抗うつ薬 | イミプラミン | 3 |
| 抗うつ薬 | 三環系抗うつ薬 | クロミプラミン | 3 |
| 抗うつ薬 | 三環系抗うつ薬 | トリミプラミン | 3 |
| 抗うつ薬 | 三環系抗うつ薬 | ノルトリプチリン | 3 |
| 抗うつ薬 | 三環系抗うつ薬 | ドスレピン | 2 |
| 抗うつ薬 | 三環系抗うつ薬 | ロフェプラミン | 2 |
| 抗うつ薬 | 四環系抗うつ薬 | セチプチリン | 2 |
| 抗うつ薬 | 四環系抗うつ薬 | マプロチリン | 2 |
| 抗うつ薬 | 四環系抗うつ薬 | ミアンセリン | 2 |
| 抗うつ薬 | ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ薬 (NaSSA) | ミルタザピン | 1 |
| 抗うつ薬 | その他の抗うつ薬 | トラゾドン | 1 |

# 日本版抗コリン薬リスクスケール　5

| 薬効群 | 薬効群中分類 | 薬物 | スコア | 一般用医薬品のみ○<br>一般用医薬品+医療用医薬品◎<br>表記がないものは医療用医薬品のみ |
|---|---|---|---|---|
| 筋弛緩薬 | 中枢性筋弛緩薬 | チザニジン | 3 | |
| 筋弛緩薬 | 中枢性筋弛緩薬 | エペリゾン | 2 | |
| 筋弛緩薬 | 中枢性筋弛緩薬 | クロルゾキサゾン | 2 | ○ |
| 筋弛緩薬 | 中枢性筋弛緩薬 | バクロフェン | 2 | |
| 筋弛緩薬 | 中枢性筋弛緩薬 | メトカルバモール | 1 | ◎ |
| 制吐薬・鎮暈薬 | 鎮暈薬 | ジフェニドール | 3 | |
| 制吐薬・鎮暈薬 | 中枢性制吐薬・鎮暈薬 | ジメンヒドリナート | 3 | |
| 制吐薬・鎮暈薬 | ムスカリン性コリン受容体拮抗薬 | スコポラミン | 3 | ○ |
| 片頭痛・慢性頭痛治療薬 | トリプタン系薬（5-$HT_{1B/1D}$受容体作動薬） | スマトリプタン | 1 | |
| 片頭痛・慢性頭痛治療薬 | トリプタン系薬（5-$HT_{1B/1D}$受容体作動薬） | ゾルミトリプタン | 1 | |
| 片頭痛・慢性頭痛治療薬 | トリプタン系薬（5-$HT_{1B/1D}$受容体作動薬） | ナラトリプタン | 1 | |

# 日本版抗コリン薬リスクスケール　6

| 薬効群 | 薬効群中分類 | 薬物 | スコア |
|---|---|---|---|
| 強心薬 | ジギタリス製剤 | ジゴキシン | 1 |
| 狭心症治療薬 | 硝酸薬 | 一硝酸イソソルビド | 1 |
| 狭心症治療薬 | 硝酸薬 | 硝酸イソソルビド | 1 |
| 狭心症治療薬 | その他の冠拡張薬 | ジピリダモール | 1 |
| 抗不整脈薬 | Naチャネル遮断薬（クラスⅠa群） | ジソピラミド | 2 |
| 抗不整脈薬 | Naチャネル遮断薬（クラスⅠa群） | キニジン | 1 |
| 抗不整脈薬 | クラスⅢ群 | アミオダロン | 1 |
| 降圧薬 | アンジオテンシン変換酵素 (ACE) 阻害薬 | カプトプリル | 1 |
| 降圧薬 | アンジオテンシン変換酵素 (ACE) 阻害薬 | トランドラプリル | 1 |
| 降圧薬 | アンジオテンシン変換酵素 (ACE) 阻害薬 | ベナゼプリル | 1 |
| 降圧薬 | Ca拮抗薬 | ジルチアゼム | 1 |
| 降圧薬 | Ca拮抗薬 | ニフェジピン | 1 |
| 降圧薬 | β遮断薬 | アテノロール | 1 |
| 降圧薬 | β遮断薬 | ベタキソロール | 1 |
| 降圧薬 | β遮断薬 | メトプロロール | 1 |
| 降圧薬 | 血管拡張薬 | ヒドララジン | 1 |
| 利尿薬 | 浸透圧利尿薬 | イソソルビド | 1 |
| 利尿薬 | K保持性利尿薬 | トリアムテレン | 1 |
| 利尿薬 | ループ利尿薬 | フロセミド | 1 |

# 日本版抗コリン薬リスクスケール　7

| 薬効群 | 薬効群中分類 | 薬物 | スコア | 一般用医薬品のみ○<br>一般用医薬品+医療用医薬品◎<br>表記がないものは医療用医薬品のみ |
|---|---|---|---|---|
| 鎮咳薬 | 中枢性非麻薬性鎮咳薬 | クロペラスチン | 2 | |
| 鎮咳薬 | 中枢性非麻薬性鎮咳薬 | デキストロメトルファン | 1 | ◎ |
| 鎮咳薬 | 中枢性麻薬性鎮咳薬 | コデイン | 1 | ◎ |
| 鎮咳薬 | 鎮咳去痰薬 | グアイフェネシン | 1 | ◎ |
| 気管支喘息治療薬 | テオフィリン薬（キサンチン誘導体） | テオフィリン | 2 | ◎ |
| 消化管疾患治療薬 | 攻撃因子抑制薬 | アトロピン | 3 | |
| 消化管疾患治療薬 | 攻撃因子抑制薬 | チキジウム | 3 | ◎ |
| 消化管疾患治療薬 | 攻撃因子抑制薬 | ブチルスコポラミン | 3 | ◎ |
| 消化管疾患治療薬 | 攻撃因子抑制薬 | プロパンテリン | 3 | |
| 消化管疾患治療薬 | 腸管運動抑制薬 | ロペラミド | 1 | ◎ |
| 消化管疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_2$）受容体拮抗薬 | シメチジン | 2 | |
| 消化管疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_2$）受容体拮抗薬 | ニザチジン | 1 | ◎ |
| 消化管疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_2$）受容体拮抗薬 | ファモチジン | 1 | ◎ |
| 消化管疾患治療薬 | プロトンポンプ阻害薬 | ランソプラゾール | 1 | |
| 消化管疾患治療薬 | 防御因子配合剤 | ジサイクロミン | 3 | ◎ |
| 消化管運動機能改善薬 | オピアト作動薬 | トリメブチン | 1 | ◎ |
| 消化管運動機能改善薬 | ドパミン受容体拮抗薬 | ドンペリドン | 1 | |
| 消化管運動機能改善薬 | ドパミン受容体拮抗薬 | メトクロプラミド | 1 | |

# 日本版抗コリン薬リスクスケール　8

| 薬効群 | 薬効群中分類 | 薬物 | スコア | 一般用医薬品のみ○<br>一般用医薬品+医療用医薬品◎<br>表記がないものは医療用医薬品のみ |
|---|---|---|---|---|
| 副腎皮質ステロイド | 副腎皮質ステロイド | コルチゾン | 1 | ◎ |
| 副腎皮質ステロイド | 副腎皮質ステロイド | デキサメタゾン | 1 | ◎ |
| 副腎皮質ステロイド | 副腎皮質ステロイド | トリアムシノロン | 1 | ◎ |
| 副腎皮質ステロイド | 副腎皮質ステロイド | ヒドロコルチゾン | 1 | ◎ |
| 副腎皮質ステロイド | 副腎皮質ステロイド | プレドニゾロン | 1 | ◎ |
| 副腎皮質ステロイド | 副腎皮質ステロイド | メチルプレドニゾロン | 1 | |
| 頻尿・過活動膀胱治療薬 | 選択的ムスカリン受容体拮抗薬（抗コリン薬） | イミダフェナシン | 3 | |
| 頻尿・過活動膀胱治療薬 | 選択的ムスカリン受容体拮抗薬（抗コリン薬） | ソリフェナシン | 3 | |
| 頻尿・過活動膀胱治療薬 | 選択的ムスカリン受容体拮抗薬（抗コリン薬） | トルテロジン | 3 | |
| 頻尿・過活動膀胱治療薬 | 選択的ムスカリン受容体拮抗薬（抗コリン薬） | フェソテロジン | 3 | |
| 頻尿・過活動膀胱治療薬 | 抗コリン＋Ca拮抗作用薬 | オキシブチニン | 3 | |
| 頻尿・過活動膀胱治療薬 | 抗コリン＋Ca拮抗作用薬 | プロピベリン | 3 | ◎ |
| 頻尿・過活動膀胱治療薬 | その他の頻尿・過活動膀胱治療薬 | フラボキサート | 3 | ◎ |

# 日本版抗コリン薬リスクスケール　9

| 薬効群 | 薬効群中分類 | 薬物 | スコア |
|---|---|---|---|
| 抗血栓薬 | クマリン系薬（ビタミンK拮抗薬） | ワルファリン | 1 |
| 痛風発作寛解・予防薬 | 痛風発作寛解・予防薬 | コルヒチン | 1 |
| 糖尿病治療薬 | ビグアナイド（BG）類 | メトホルミン | 1 |
| 免疫疾患治療薬 | 免疫抑制薬 | アザチオプリン | 1 |
| 免疫疾患治療薬 | 免疫抑制薬 | シクロスポリン | 1 |
| 免疫疾患治療薬 | 免疫抑制薬 | メトトレキサート | 1 |

# 日本版抗コリン薬リスクスケール　10

| 薬効群 | 薬効群中分類 | 薬物 | スコア | 一般用医薬品のみ○<br>一般用医薬品+医療用医薬品◎<br>表記がないものは医療用医薬品のみ |
|---|---|---|---|---|
| アレルギー疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_1$）受容体拮抗薬（第一世代） | カルビノキサミン | 3 | ○ |
| アレルギー疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_1$）受容体拮抗薬（第一世代） | クレマスチン | 3 | ◎ |
| アレルギー疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_1$）受容体拮抗薬（第一世代） | クロルフェニラミン | 3 | ◎ |
| アレルギー疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_1$）受容体拮抗薬（第一世代） | ジフェニルピラリン | 3 | ○ |
| アレルギー疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_1$）受容体拮抗薬（第一世代） | ジフェンヒドラミン | 3 | ◎ |
| アレルギー疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_1$）受容体拮抗薬（第一世代） | シプロヘプタジン | 3 | |
| アレルギー疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_1$）受容体拮抗薬（第一世代） | ヒドロキシジン | 3 | |
| アレルギー疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_1$）受容体拮抗薬（第一世代） | フェニラミン | 3 | ○ |
| アレルギー疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_1$）受容体拮抗薬（第一世代） | プロメタジン | 3 | ◎ |
| アレルギー疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_1$）受容体拮抗薬（第一世代） | アリメマジン | 2 | ◎ |

# 日本版抗コリン薬リスクスケール　11

| 薬効群 | 薬効群中分類 | 薬物 | スコア | 一般用医薬品のみ○<br>一般用医薬品+医療用医薬品◎<br>表記がないものは医療用医薬品のみ |
|---|---|---|---|---|
| アレルギー疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_1$）受容体拮抗薬（第二世代） | メキタジン | 3 | ◎ |
| アレルギー疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_1$）受容体拮抗薬（第二世代） | セチリジン | 2 | ◎ |
| アレルギー疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_1$）受容体拮抗薬（第二世代） | エピナスチン | 1 | ◎ |
| アレルギー疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_1$）受容体拮抗薬（第二世代） | エメダスチン | 1 | |
| アレルギー疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_1$）受容体拮抗薬（第二世代） | オロパタジン | 1 | |
| アレルギー疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_1$）受容体拮抗薬（第二世代） | ケトチフェン | 1 | ◎ |
| アレルギー疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_1$）受容体拮抗薬（第二世代） | デスロラタジン | 1 | |
| アレルギー疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_1$）受容体拮抗薬（第二世代） | フェキソフェナジン | 1 | ◎ |
| アレルギー疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_1$）受容体拮抗薬（第二世代） | ルパタジン | 1 | |
| アレルギー疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_1$）受容体拮抗薬（第二世代） | レボセチリジン | 1 | |
| アレルギー疾患治療薬 | ヒスタミン（$H_1$）受容体拮抗薬（第二世代） | ロラタジン | 1 | ◎ |

# 日本版抗コリン薬リスクスケール　12

| 薬効群 | 薬効群中分類 | 薬物 | スコア | ー般用医薬品のみ○<br>ー般用医薬品+医療用医薬品◎<br>表記がないものは医療用医薬品のみ |
|---|---|---|---|---|
| その他 | 抗コリン薬 | ベラドンナ | 3 | ○ |
| 抗菌薬 | グリコペプチド系薬 | バンコマイシン | 1 | |
| 抗菌薬 | リンコマイシン系薬 | クリンダマイシン | 1 | |
| 抗菌薬 | 広域ペニシリン系薬 | アンピシリン | 1 | |
| 鎮痛薬 | 非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs） | セレコキシブ | 1 | |
| 麻薬類似薬 | その他のオピオイド | トラマドール | 2 | |
| 麻薬 | モルフィナン系オピオイド | オキシコドン | 1 | |
| 麻薬 | モルフィナン系オピオイド | モルヒネ | 1 | |
| 麻薬 | フェニルピペリジン系オピオイド | フェンタニル | 1 | |
| 麻薬 | その他のオピオイド | メサドン | 2 | |
| 麻薬 | その他のオピオイド | タペンタドール | 1 | |

# 日本版抗コリン薬リスクスケール　OTC

## 日本版抗コリン薬リスクスケール該当医薬品　上位10品目

| 薬効群 | 薬効群中分類 | 薬物 | スコア | 販売品目数 |
|---|---|---|---|---|
| アレルギー疾患治療薬 | ヒスタミン（H1）受容体拮抗薬（第一世代） | クロルフェニラミン | 3 | 1538 (15.2%) |
| アレルギー疾患治療薬 | ヒスタミン（H1）受容体拮抗薬（第一世代） | ジフェンヒドラミン | 3 | 672 (6.6%) |
| 鎮咳薬 | 中枢性麻薬性鎮咳薬 | コデイン | 1 | 455 (4.5%) |
| 副腎皮質ステロイド | 副腎皮質ステロイド | プレドニゾロン | 1 | 268 (2.6%) |
| 鎮咳薬 | 中枢性非麻薬性鎮咳薬 | デキストロメトルファン | 1 | 146 (1.4%) |
| 鎮咳薬 | 鎮咳去痰薬 | グアイフェネシン | 1 | 126 (1.2%) |
| その他 | 抗コリン薬 | ベラドンナ | 3 | 96 (0.9%) |
| 副腎皮質ステロイド | 副腎皮質ステロイド | コルチゾン | 1 | 88 (0.9%) |
| 副腎皮質ステロイド | 副腎皮質ステロイド | ヒドロコルチゾン | 1 | 77 (0.8%) |
| 制吐薬・鎮暈薬 | ムスカリン性<br>コリン受容体拮抗薬 | スコポラミン | 3 | 63 (0.6%) |

PMDA　一般用医薬品・要指導医薬品情報検索にて検索https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/otcSearch/ （2024年5月7日検索）
母数を要指導医薬品、第1～3類医薬品の10138とした。

**販売されている10138医薬品のうち、3808医薬品（37.6%）が該当**

# 抗コリン薬リスクスケールおよび薬物有害事象に関するスコーピングレビュー

# 文献調査結果

| 項目 | 文献数 |
|---|---|
| 抗コリン薬の薬物有害事象に関する文献調査 | 58 |
| 内訳（重複あり） | |
| 認知機能低下　記憶障害 | 16 |
| 中枢神経作用（眠気、頭痛、めまい、不安、幻覚など） | 9 |
| 運動機能障害（転倒、筋力低下、手足の震え、歩行障害など） | 14 |
| 消化器症状（便秘、腹痛、食欲不振、吐き気・嘔吐、腹部膨満感など） | 4 |
| 口腔機能（嚥下機能低下、口腔乾燥など） | 15 |
| 感覚器障害（視覚障害、眼圧上昇、味覚異常、触覚異常、耳鳴りなど） | 2 |
| 排尿障害（排尿困難、尿閉、頻尿、尿失禁、尿路感染など） | 3 |
| 循環器症状（心拍数増加、高血圧、心房細動、心疾患悪化など） | 6 |
| その他（死亡、QOLなど） | 11 |

文献調査に基づきスコーピングレビューを行った。

# まとめ

## 日本版抗コリン薬リスクスケール

スコア3が37薬物、スコア2が27薬物、スコア1が94薬物の全158薬物

1. 適用対象

高齢者を主な適用対象とするが、適用対象に年齢上の区分は設けない。

2. 利用対象

薬剤師、医師・歯科医師、看護師やその他の医療介護専門職全般である。

使い方

- 個々の薬物のリスク評価
- 総合的なリスク評価（総抗コリン薬負荷）

今後アプリケーション開発等を進めていく予定

# THANK YOU!

ありがとうございました